

第10回絆づくりこうなん実行委員会 会議要旨

日時：平成24年3月13日（火） 午後2時～4時

場所：市民・協働ステーション（情報センター2階）

大会議室

議題：(1) 絆づくりカフェに対する感想・意見について（報告）
(2) 今後の絆づくりこうなん実行委員会について
(3) その他

(1) 絆づくりカフェに対する感想・意見について（報告）

- ◆事務局に届いている「絆づくりカフェ」へのメッセージをまとめた資料を配付し、報告した後、改めて実行委員メンバーに感想、思いなどを語っていただきました。
- ・先日のナゴヤウィメンズマラソンにボランティアとして参加した。名古屋国際女子マラソンが前身の全国的に有名な大会だが、良い企画にするためにボランティアの意見が聞かれ、反映され、第1回目を開催した。今後は1回目の反省を活かして2回目、3回目と開催していくと思う。絆づくりカフェも色々あったが、私たち実行委員の意見が反映されて1回目が無事に終わった。今後はその反省を踏まえてより良いものにし、参加者もボランティアも皆が「よかった！」と思える企画を開催していきたいと思う。
- ・「絆」というと子どもと高齢者の組み合わせを連想するが、絆づくりカフェでは大人同士の偏りない絆が生まれて、とても良かったと思っている。私の成果としては、パネル提案した8事業のうち4事業について、「やっていこう！」と意欲を見せる人が出てきた。実際に活動を始められるのではないかとと思っている。各々の事業に責任者をおき、組織をつくって、4つの小さな活動団体として動き出し、実現させていきたいと思う。
- ・プレゼンを希望した団体が6団体あり、午前と午後にそれぞれ3団体ずつ割り振ったが、午前だけ、午後だけ来場される方も多く、「どちらも聞きたかった」といった声があった。割り振るのではなく、午前も午後も両方参加してもらおうとよいのではと思った。
⇒「交流会の時間が短かった」との意見もあった。一方に力を入れると一方で時間が足らなくなる。1日という限られた時間の中で目的をどこにおくか、工夫しながら考える必要がある。
- ・NPO・ボラ団体にDMを送ったが、その情報が団体の代表で止まり会員に伝わっていなかった。実行委員の私もこの会の主旨を理解するには時間がかかったし、代表の方も突然の便りで「絆づくりカフェ」と言われ驚いたとは思いますが、その現実を知り残念に思った。
⇒初めての企画であり仕方ない部分ではないかと思う。チラシを送れば情報が広がるとはなかなかいかない。「環境フェスティバル」のように、それを活動の目標にする団体があるような歴史あるイベントであればDMだけでイメージもわくが、何度か継続して開催することで、一步一步少しずつ浸透し広がっていくのではないかと思う。
- ・先日、市議会でも絆づくりカフェの話が上がったが、「とても良い企画だった」と高い評価で「今後も継続してほしい」とのメッセージがあった。問題点もあるとは思いますが、第1回目としては大成功だったと思う。問題点は今後の宿題として、修正しながら継続していきたい。

- ・私たちは「絆づくりこうなん実行委員会」だが、市内には似たような名前の団体がある。先日ある団体の代表と話す機会があり連携事業を提案したが、「自分達の活動で年間スケジュールがいっぱいで何か新しい事業をはじめる余裕はない」とのことだった。「手伝っていただけませんか？」といった腰の低い姿勢があれば、参加が期待できるかもしれない。
- ・社会福祉協議会から「連携して事業を行いたい」との意見をもらっている。今まで社協として団体交流会を開催してきたが、福祉分野以外にはなかなか広がらずにいた。「同じような顔ぶれの状況を打開するために、一緒にできないか。」との話だった。

(2) 今後の絆づくりこうなん実行委員会について

- ◆今後の絆づくりこうなん実行委員会について、市としての思いを伝えた上で、話し合いをはじめました。

■絆づくりこうなん実行委員会に対する市の思い

- ①市としては、今回と同じように事務局として参加していきたい。市が一方向的に企画・開催するのではなく、交流会を必要とする皆さんで構成された実行委員会に関わっていきたい。
- ②交流会「絆づくりカフェ」を継続して開催したい。(年に1回ではなく定期的に何度か開催したい。)

- ・行政に頼るのではなく、中間支援組織として自立するのが市民の役割だと思う。団体同士や行政とのつなぎ役、共に育ち合える相談役を担う団体として独立するべきだと思う。そうでなければ、何のための実行委員会なのか。横のつながりを支援できる団体にならないければ意味がない。140団体にDMを出してそのうち反応があったのは7団体に止まったのは、そういった役割が機能していないからだと思う。
- ・DMによって思うような効果が出るというのは、おいしすぎる話だと思う。DMの反応は薄くても、1回目の絆づくりカフェを開催したというのは大きな歴史的事実である。私たち実行委員は、3つの目的(①まちづくり条例の普及、②まちづくり組織間の連携、③まちづくりへの個人の参加機会の創出)のもと行政によって公募された。今回、①、②は達成できたが、③は完全に達成できたとは言いがたい。しかし、10名の力で初めて運営する企画としては成功だった。組織間のつながりづくりを担うための波にうまく乗れたところだと思う。これを大きな波とするために、私は今回と同じ体制の実行委員会に参加してお手伝いしていきたいと思っている。
- ・今回の交流会は、すでに市民活動をしている団体の関係者のみが参加していた。今現在、まちづくり活動に参加していない個人をどう呼び込んでいくか。「協働」に関わって6年が経過したが、何も変わっていない状況がはがゆい。周りには「今まで何をしてきたのか？」と言われてしまう。7団体しか反応がなかったこと、個人に広がる活動ができていないことを反省しなければならない。
- ・私は、7団体も反応があったと思っている。会場もいっぱいだった。
- ・会場が情報センターである事ははじめから問題だと思っていた。今回の交流会は、私のグループでは「バン格拉デシュ」と「わらしべ」とがつながった。良い企画だったと思っている。しかし、市民活動団体の中には協働を拒否している人が多い。そう

いった人に理解してもらうためには説得力のある活動をしていかなければならない。結果を示さなければならぬ。実際に「協働なんて」と言われた。

- 協働に拒否反応を示す人もいると思う。しかし、それはひとにぎりだと思う。140 団体の中には、色々な考えがあると思う。
- 「協働なんて」と言われると頭にくる。協働について話のできる人を育てていかなければならない。意識の差があってはいけない。
- 単独で新たにボランティアをやりたい人が出てればその人には協働を伝えることができるが、団体の場合は、団体の長の思いで作り上げた活動をしている事が多く、その思いを崩して協働を広めようとしてもそれは難しいと思う。
- 「6年活動しても協働が広まらない。」というのは、絆づくり実行委員会の問題ではないと思う。この会の活動はまだ始まったばかりだ。
- 絆づくり実行委員会も絆づくりカフェも税金を使って開催している。利用した税金に対しての効果を数字で示す必要がある。
- 協働を広めようと活動されていて、一生懸命やればやるほど今の現状がはがゆいのだと思う。広がらないからやめるのではなく、その経験を活かして、絆づくり実行委員会を引っ張ってほしい。時間がかかっても、広げていくような活動を続けていきたい。会場費は無料であり、実行委員のみなさんは無償で参加してくださっている。費用はかかっていない。
- 団体としてお金をかけていないと考えていても、行政との関わりがあれば職員の人件費、会場費、その他様々な経費が税金で支払われていると考える必要がある。その費用は無視できない。
- 協働には、「強制はしない」という考え方がある。参加はしてほしいし、参加したい人は歓迎するが強制はしない。色々な団体の考えがあるのは当然であり、それを変えていけるような活動を目指していきたい。
- 成果が見えない活動で満足しているのかとの声がある。費用がかかっている以上、その成果をしっかりと示さなければならぬ。「何が成果だ」と言われると頭にくる。行政依存型を変えるのは時間がかかるが取り組まなければならない。以前、私が会長をした「こみなみコミュニティ協議会」でも、費用対効果について指摘された。成果が見えないからと 30 万円の補助金を無くされたことがある。

7 団体しか反応がなかったというのが納得いかない。行政に関わり税金がかかっている以上、この現状に問題意識をもたなければならない。

- かかった費用で一番大きいのは郵便代だと思うが、他事業のPRと一緒に郵送しており、絆づくりのために膨大な費用を費やしたという事実はない。人件費を換算する考え方は、経営感覚として必要だとは思う。

今まで実行段階に市民が関わることはあっても、企画段階からしっかり関わり開催したイベントはあまりない。実際に活動している皆さんで企画した方が実りあるものが開催できるだろうと委員を公募したものだ。それこそ、同じコストをかけて行政が単独で開催するよりも、サービスを受ける人がほしいサービスを企画するのが、一番効果的だろうと考えた。

公募の段階で3つの目的があったが、その中でも今回は団体のつながりづくりが一番大きな目的であり、それが達成できたという効果があった。ここで満足せずに2回、3回とより良いも

のを目指していきたいが、ひとまず1回目としては成功だったと思っている。

前回は市が実行委員を募集して選考という形をとったが、これからまた募集するとして、どういった方を何人、どのような形で募集するか。ここで決めていきたい。

- ・環境でもボランティアでも費用対効果を出している。この会だけそういう考えを持たず行政によりかかっているだけでは申し訳ない。
- ・皆さんが希望されるのであれば、この実行委員会で、「協働についての評価」を考えていくのも良いかもしれない。
- ・私の活動する団体は、たません一枚100円で、20円の売り上げを上げている。甘い考え方では継続できない。厳しくなければならない。
- ・コスト意識を持つことは良いことだと思う。
今後、この実行委員会をどうしていくかを考えたい。このままズルズル続けるのではなく、気持ちを一掃して継続していければ良いと思っている。
- ・やめようと思えばやめられるが、今まで市民活動に関わってきてここでやめるわけにはいかないと思っている。行政に依存するのはよくない。
- ・絆づくりカフェを継続したい思いは、委員の統一した意見である。この実行委員会は行政の呼びかけにより集まってまだスタートしたばかりだ。少なくとも24年度は同じ体制で進めてはどうか。また、少し仲間を増やすために再度委員の募集を市民に呼びかけてはどうか。行政に任せる事も必要だと思う。
- ・絆づくりカフェ当日も、机を並べるために、保管場所や配置を行政に意見を求めていた。行政がいないと何もできないようではいけない。
- ・私は、行政に対してもう少し手伝ってほしいと考えているし、一緒にやる姿勢を持ってもらいたいと思っている。
- ・社協は月に一度ボランティアの連絡協議会があると聞いたが、市にはそういった機会がないと思い行政からひと声かけた。今のところ、行政として負担が多すぎるとは感じていない。行政としては、中間支援組織があれば全てお任せしたいと考えている。
- ・環境フェスタは、市から委託を受けて市民が企画運営している。初めの段階から自分達で苦労しなければいけない。市民活動は汗水たらして行わないと育たない。
鈴木委員も普段は健康づくりの市民活動をしているが、行政には依存していない。最初から行政に頼りきっているようでは、発展は見込めない。
- ・前回、実行委員会に団体PR参加団体を呼ぼうといった話があった。顔を合わせて直接意見を聞くことができるし、実行委員の仲間づくりになる。団体同士の交流にもつながる。
環境フェスティバルでは、説明会の時点から団体同士の交流が始まっているそうだが、今回の絆カフェの説明会は、実務的な話だけで終わった。
- ・団体からの意見はメッセージカードで出ているし、改めて集める必要はない。追加で実行委員を募集する必要があると思うが、それは一般公募で集めるべきだと思う。新たな顔ぶれを募集したい。関係者だけでは、幅が狭まる。
次回以降の絆カフェは、説明会から交流が始まるような仕掛けをしていきたい。
- ・初代絆づくり実行委員の特権として、それぞれの委員が得意とするテーマ（健康づくり、福祉、子育てなど）を提示して追加募集してはどうか。

- ・実行委員は、今現在活動しているかは関係なく、一般の市民を募集したい。1 回目の絆づくりカフェにとらわれず、新しく立ち上がる気持ちで新しいメンバーを募集したい。実行委員の公募は、新たな人間を育てていくことにつながる。
- ・新たに実行委員を募集するとして、どんな人とやっていくのか。何人募集するのか。選考とするのか。若干名としたら多かった場合どのように対応するか。その辺りをしっかり決めたい。市が任命するという形式をとるつもりはなく、運営のルールなども実行委員の皆さんで決めていただきたい。広報やHP掲載などは市の役割として果たしていく。
成人式も実行委員会を設けているが、委員メンバーが友達を連れてきて年々少しずつ増えていくとの事だった。
- ・公募してもまた同じ顔ぶれでは、横のつながりは生まれにくい。広報に掲載してもその記事が記憶に残るとは限らない。口コミの広報をどう充実させていくかを考える必要がある。
- ・広報文についても実行委員で考えていきたい。

■次回

- ・次回の日程は、4月17日（火）午後1時半～3時半
- ・実行委員会を拡大するため委員を募集するが、広報、HP等で実行委員会への参加を呼びかける原稿（案）について協議する。実行委員から（案）の提案があれば、あらかじめ事務局まで提出していただく。